

いしんの時にははくはまだほいく園でしたそ
 の時はすごくこわかったでまそあかり家にか
 え、たときはもうテレビはニュースば、か
 りでしたもうま店はや、ていませんでした。
 これからも死んでしま、た人たちのぶんもか
 らばりたいです

東日本大震災からもうすぐ4年。

あの日は、まだようち園せいだ。たぬたしは
バスで帰。てもてまもなくのときでした。

仕事にでかけるお母さんと。しよにでかけ

るが、はやくかえ。てまたお父さんしるまば

んするかなやんでいるときでした。しつぜん

けいたいの音とどうじにりえがくもくゆれま

した。お母さんがたしのエにかぶせり、お

ちてくる荷物からまも。てくれました。この

ままが、しとまうなりのかとおもうくらりな

がくゆれました。りえのなかは人ずれた荷物

をい。ざりになりました。しわか。たです。

けんぱつのごとがよくわからなくて、たべ物

をかうのに何十分もならんざりしました。

今もしんやほうしゃのうや病気とかふあん

がい。ぱりです。はやくどうろも山も海もき

れいにな。て、おもい。きりしんこきゅうし

ておいしいくらきをする。たり、うみでおより

だりてきるようにゆればいいと思います。

いしんがあ、た時は、ち歳で保育所にいた時
でした。おている時にいしんがきてみんなで
にげました。

家に帰ったたらガラスがおネでタンヌや家具が
たおねていて家の中があねていました。

水も止ま、て、しまいお風呂にはいることも
できませんでした。道路もひびおネてしまい
車も走ねまかん。

いしんのあと、集田登校ができないけど、で
きるだけ、外で休なうか、てスポーツなかん
ぱりたいです。

わたしは、しんさいのとき五さいでした。
いしんがきた時かかみ石野にすんでいてあ
うどようちえんから帰った時でした。お
母さんがわたしと弟を、だっこして家の外に
にげました。土っていり売ないぐらひすごい
ゆれてました。家もいしんでひびかガラスが割
れたりして家の中がゆかゆかになっ
てしまいました。わたしは、よくおぼえていま
さんがこのおかしなです。そのあとは、水がとま
たり電気もつままなりました。みんなでもう
外にくるまうてビニールハウスにいました。
そのおともいしんがたかくさんまでこた
けました。わたしの家よくはみんな無事
でした。このいしんがあつてわたしは、と
てもこのおかしなです。でも家をよく
いってたのでおかしなです。ほかのと
ころではなくなつた人もた
くさんいてとてもおかしなです。
このおかしなもこのいしんのことはおぼ
えておかしなです。

東日本大しん災の時わたしは喜久田ほいくし
 ちねている時でした。そのゆれでみんなおき
 てしまいました。先生はみんなにこういいま
 した。「みんなおとんにかくれなさい」とい
 いました。みんなはい、せいに「はい」と言いま
 した。先生はまどをあけたりしていました。わた
 しも東日本たい災さいの体験をしました。
 いつじしんがくるかわからないです。毎
 日のみんな「こわい」と言う人がいたの
 でわたしも「こわい」と思いました。
 一人一人いっている人もいました。
 みんなとなりの人に「だいじょうぶ」と声
 をかけてなぐさめている人を見えました。わた
 しもとなりの人に「だいじょうぶ」と声をかけ
 ました。その子はほゆくの時ながよした。
 たりんかちゃんという人でした。またいか
 るかわからないじしんです。わたしはつよい
 しんがきたらすぐくえの下とかにかくれた
 いです。

わたしは、東日本大しんさいの時は5才の
 年中でした。ようち園バスに乗るところでし
 た。お遊あそびしつでならんでいました。とつぜ
 んモップかたお木で、たてピアノかたお木で
 きました。すごりゆ木でこわくて友だちと手
 をつないだまま泣いてしまいました。先生が
 園いっしょていっ木ていっ てくれて園いっしょていのまん中に
 みんなで丸くなって、先生かわたしたちの外
 かあでまもってくれました。地面がゆれて立
 っていらなくなくてしゃかんでいさくなってい
 ました。その時、お父さん、おあさん、お姉
 ちゃんでおかえにきてくれました。みんなの
 顔をみたら安心してまた泣いてしまいました。
 家に帰ってからも地しんがず、と続いて家族
 です、といっしょにいました。ニュースでつ
 なみをみたり、火事をみたりすごくすごくこ
 わか、たです。地しんのけいほうを聞くたび
 びくびくしてお木ませんでした。もう二度と
 あんな思いはしたくありません。今思いたし
 てもとてもこわいです。

ぼくは、その時今中学一年生の友だちと遊んでいました。2人でゲームをやっていたとき、気がついてきました。友だちがもろもろもろかえるといって、ゲームの電源を、切ろうとしたら家が、大きくゆれはじめ、ぼくは、ストーブを切って、外へ逃げました。ぼくが逃げた後、友だちは、家の中に、いました。友だちが、バシカどうかしんはいっていました。でも、友だちは、こたつの下にかくれこんだので、たすかりました。ぼくは、じしんだけが来た人だと思っただけなのに、テレビでは、放射せんだ。たりたりなるなことが、おきていました。今でも、あの事を思いだすとたいへんだったなあと、思います。でも、この一件があつた事で、非人訓練のありがたみが増えると思います。また、復興できるいい地域などがあるので、早く復興できる事を願っています。

あの日、私達の日常は崩れました。部屋。
 戸たなはたおれ、テレビはこわれ、元の形が
 後かたもなく消えさりました。
 私と母、弟とお祖母さんの4人は、家の中
 でふ段どうり生活してゐました。そんな時、
 あくはあこりしました。身、けいたいからなる
 聞いた事のない音。五分以内に大きな地震が
 起こりますというような警告文が書かれてい
 きました。何だろう？と考えるひまもあたえず
 大きなゆれがおそいました。私はどうしよう
 もできずにいました。怖い、返くにけたい。
 恐怖の感情だけが頭を上げり、私はげんかん
 へと走ってしまいました。あの時、地震の本当の
 怖さを知りました。机を少しゆらした小さな
 地震がかわいく思えました。あの時2年生だ
 った私は心の整理ができませんでした。
 今は前の生活をほとんどとりもどしました
 が、今も地震の被害に苦しむ人はたくさんい
 るのでしよう。被害にあつた皆に笑顔で生活
 ができる日がくることを強く願います。

ぼくは、お姉ちゃんとお母さんと自転車で遊んでいました。すると、雪のようなものがふりてきて、その時は、いきよういもよわくて、キレイだなと思、ているといきなりよこなぐりの雪になりさむいなと家にむか、ていると、トラックが急にとまりなんだろうと思うと、ごんしんはしら、大きくゆれトラックもがたがたとなり、なんとか家につくとお母さんお父さんお兄ちゃんみんな家にきました。その後お父さんの車でテレビをみるとニュースは、じしんのことでした。そのあともよしんがつつきねむれない夜になりました。そのあとは津波のニュースなど多くの命がなくな、たと思うとすごくこわくなります。今でも家をなくした人や家があるのにかえれないのがかわいそうです。

3月11日 ぼくは、2年生の時は、学ぼうでい
 ました。学ぼうでんとうやくんとブロックであそ
 んでいた時、じしんがおきました。ぼくと、
 こうやくんは、みんなが机にかくれるなか、
 2人だけがあそんでいました。5分ぐらいう
 ると机にかくれました。じしんから15～30分
 た、たころにおかあさんがおがえにきて、帰
 りました。帰る時にはマイハウスは壊れて
 いました。

そのためふと人を、ビニールぶくろの上であ
 ました。

3月12日 学校が休みな事をしり、喜んでいま
 した。家でず、とがーりをしてました。
 たけ、ど、ときどき勉強しろ、そやあだが、そ
 いました。今じじしんのことほ一つの思い出
 じす。

4月ころにやさしりの学木で少しふあんか
 あ、たけど、楽しか、たので1日で不安か
 けました。

3月11日大きなじしん、びっくりした。こわかった。いっぱい泣いた。その時私は、まだ小さな2年生だった。じしんがなった時は、じもつクラッでみんなが行ったから、あんしん下きたけど、ずっとゆれていて死ぬかと思いました。おやつの時も、おどわれてすごびっくりした。ゆれがとまったあともずっと心ぞうがバクバクしていた。私は、その時1つだけ大事な事がありました。それは、家族です。朝は、ふつろに行ってきます。と言って学校を降りすぐにじしんがなった。最初は、大丈夫だと思ったけど、とんとんゆれがひびくようになってきた。むかえもなくなった。私は、最後までずっとこなっていた。家大丈夫かなと考えた。家に帰ると家は、大変な事になってた。そこがずっと学校が休みになった。学校は、大丈夫かな早くみんなとあいたいなうしはニュースだらけの中でつなみで、いっぱいなくなれた人まいる私は今生きている事に、感謝しています。この体験はあすれられません。

原発について

3月11日に東日本大震災が起きて、福島県の、東北電力の原子炉が爆発して、私たちの住んでいる郡山にも放射能がきた。

とある政治家の人は、「原発ゼロ」と言っているが、私にと、ては口だけの発言に思える。きちんと話を進めているのかもしれないが、^{軽々}軽々しくその政治家は言っている。なので原発ゼロなんて事、信じられない。

福島県民にと、ては原発ゼロはと、ても望ましい事だと思う。放射能はがんを助ける細胞をこわしてしまいう可能性があり、がんになりやすいという。でも、放射能があるからと言って県外に逃げない県民はあざいと思う。県外に行ってしまう、百人もいるが、残っている人たちはすごいと思う。

福島県民は日本でも強い人たろだと思は思う。

6年

私は、東日本大しん災の時、山形県にいま
 した。もともとは、山形の^{出身}の女でした。けどお
 父さんの仕事で福島に来る事になりました。
 家に帰り、テレビをつけてみてみたら、つな
 みがきていました。それに、何回も何回も
 私達におそってきました。
 それで多くの人は、なくなり、みんな海に流
 され、家もながされ、たてものもくずれてが
 いが大きかった。福島も、ものすごくゆ
 れたそう。いおきでは、つなみかきて、
 3クマリン福島の、人と店員さん達は、二
 階^階に行き、全員たかりました。けれども、
 多くの魚は、海にながされてしま。たそうでは
 ないけど、てがいがおさまり、ゆ。くりとした
 時は、あとしおつ、魚とともていしていま
 した。これも、ふ。この一つだと思いま。あ
 地域の人かた、ボランティアの人達が私達のた
 めに、今日も早く、あとしおつたてものさ
 がおしこいたり金にする物もけんさしたりし
 て、今安全で気持ちよくあつているのです

私の学校は震災の日。たまたま早帰りの日
 でした。私はその日お父さんと一緒に買い物
 に行っていました。その時、東日本大震災が
 発生したので。お店のガラスは割れ、色ん
 な所からたくさんの悲鳴が聞こえ、当時2年
 生だ。た私は、今までにはいぐらいの恐怖に
 おそわれました。幸い、私の町は津波などの
 被害がありませんでした。でも、原発が爆発
 した事により学校行事などがすべて屋内にな
 ってしまった。たのはとても悲しかったです。余
 震がずくと続き不安になる毎日でした。でも
 友達と会えたら、かり不安は消えてしまし
 ました。その時、友達という存在の大きさをあら
 ためて感じました。私は今、楽しい毎日を送
 っているけど、震災で苦しんでいる人達は他
 にもたくさんいるという事を忘れずに生活し
 ようと思いました。まだ私は子供だけと、大
 人になるまでの間も少しでもいいから、その
 苦しんでいる人達の手助けになるよう復興を
 手伝おうと思えます。

徳山立直久田小学校 12歳

田嶋 悠希

「東日本大震災の本震と復興への道」

何

ぼくが3年生の時に、東日本大震災がありました。地震があった3月11日の午後2時46分震度7弱で、ぼくとお兄ちゃんは家にいて、家の中たいていと危ないと思っ二人で出ようとして、出たらぼくがおちてて急ぎ、お兄ちゃんのかつを片方はいて外に出てしまいました。

その後、みんなでおはなを食った時にあまりにもショクビこのぼくがおはながのどを通りませんでした。そのときは、おはんや水なかがソリンがあったことは、当たり前のことではなない人だなあと思っました。

まだ、全、た、く、わ、こ、う、し、て、い、な、い、所、や、
仮^仮談住宅で暮らし、地もとて帰えれなない人が
多いのでこれからも、となにか役に立つこ
とをしていきたいと思っます。

6年

東日本大震災があったのは私が2年生のあ
わりごろでした。習い事へ行っていたのにげなく
通かしているとき急に下からドドツツとゆれは
じめました。私ははじめてでどうして良いか
分からなく先生が
「こっちの机の下へ入りなさい」と
言っていて導かれるまま入るとビンなどが落
ちて来て30秒ぐらいのことが長く感じまし
た。先生もビックリしているのに6年生の子
がうしろをみたり、外をみていました。今考
えるとその子は震災初体験なのになぜあんな
に落ち着き冷静だったのでしょうか。私が学校
に入る前にひなん訓練があったそうです。思
いもしない訓練でもいつ本当のことが来るか
分かりません。ですからひなん訓練等は真剣
に行い備えるのが大切ですよ。

私は、東日本大震災の時、下校時でした。
 いきなり地面がゆれだし、ひっくり返した私は
 近くにいるお友達とがよっていた児童クラブ
 という所にダッシュでいきました。中にいた
 先生が、
 「中に入っことはダメ」
 といいますが中にいる小さい子どもたちが出さく
 るまで外を待っていました。これからのことを
 考えてはもうのたふら、なにがおきてくるのか
 とうとうすごく怖くなりました。いつも出てく
 るおやつが少なく、お母さんがまたかたこ心配
 でした。家が流された人も思い出す大切な人
 をたくさん、失い大変な思いをされていると
 思います。そんなことを忘れず、はやくとも
 とおりの生活にもお返し、家が壊れればお返し
 を建てなにかが思いまき。家族がいなくて
 悲しいのを忘る人もいまして。でもそれ
 をのりにえて幸せをつかんぶほしいひき。は
 やく復興してほしいと思います。明るい笑顔
 がもたらせますように…。

ぼくが東日本大震災を体験したのは、3月11日2時46分でした。その時ぼくは、また3年生で学童にいました。震災は、いきなりクラスやスズメなどの鳥が全て同じ方向に飛んでいき学童で餌、ているうさぎのハイスと少しそわそわしていたのを覚えていきます。それが少したつた時に震災がおきました。学童の友達と机の下に入りましたが、友達が大きくてどちらかがかか、はみ出すようになりました。その時ぼくは、アパートに往人していました。が、いわきのおはなち、人が寄ったので、お父さんの実家に往住してにしました。水道が止まり、テレビもしど、ち、う、CM(さよならイオンと、うがう)、スーパーでも一面なにもないことになりました。うちは大じぶんでした。が、つなみなどのひがいにあう人もいたので地震は、できればおきてほしくないです。

2年

大きくなりしんがきたのは、私が2年ぐらい
の時でした。

ちょうど、学校も、短しやくで、早いかえ
りでした。

家に居たのは、おばあちゃん、お兄ちゃん
2人と私でした。

いきなり下の方から、ドドドドーと音の中
れはじめ、しんは、ますます、大きくなり、

私は、その場のじょうきょうを読みとれず、

とにかく、おばあちゃんたちと、コタツにも

がりました。しんがおさま、たのきさまに

みんなで、外に出て、それでも、しんが、

おさまらず、お母さんとお父さんも、帰りが

おそくてこわかったです。

しんは、いつくるか分からないから、い

つきてもいっしょに、をなえとおまにいます。

東日本大震災にまつわる体験といえれば東京への自主避難でした。放射能で大さわぎの最中、田植えがおわるまで息をひそめるように暮らし、震災から3ヶ月目にしての避難でした。子供3人と母親の4人で親戚を頼り、たった1ヶ月の避難生活は当時の私達には必要な体験でした。普通の生活のありがたさを、こんな形で思い知る事になるとは考えもしませんでした。自主避難を続ける事は現実的に無理と悟り郡山へ戻り、後は、普通の生活ではありえない選択の繰り返しでした。自家製の米、野菜を食べるか？外で遊ぶのか？購入したかりがーカウンター片手に、日々情報の取捨選択に迫られました。子供達の祖父世代との温度差にもだりぶ小悩みました。どこで折り合いをつけたら良いのかは今だ分かりません。こうして思い返してみても改めて、過去ではなく現在進行形であると実感します。

「ひがし日本だいしんせいの たいけんたんとう むつこうの抱もい」

一年なまえめいする

ぼくはあの日、とても心が、たえず、い
 えのまえで大きなつなみを見ました。そのつ
 なみは、いえのじょう口のちかくまでま
 だ。ぼくのいえにはつなみはまきせんでした
 が、つるしのおばあちゃんのにえは、せんぶ
 ながたれてしまいました。でも、つるしのお
 ばあちゃんには、ひなんしてぶじでした。
 こしあたらしいおばあちゃんのにえがた
 ちました。あたらしいおうちも、なみか
 なが、たるところにたちました。もうつなみが
 こしといいなとおもいます。

「ひがし日本だいしんちいの たいけんだんと めっくらくのおもひ」

一年なまえたいしうはる。

ぼくは、	大しんちいの	ともまだ三さいでし
たか、	大きくゆれて	一わが、たいおくがのこ
てい	ます。	
ぼくが	すんで	いる、く甲の野は、
二	小学校とほ	いくしよで大きな
を	ひらいたり	みとなか
ぎ	うじが	たくさんま
さん	かある	たごにたの
つ	らいきお	はやされる
ぼくが	たのしく	学校にかよえる
元	気をと	もびすの
も	い	ます。
い	ま	でも、えき
二	ま	て
な	して	み
て	す	

わたしは、ふくしまけんのしんちまちにす
 んでいます。このまえが、このみんなとど
 んぐりの木をうえました。どんぐりの木が大
 きくな。ア、みんながたのしくあそべるよう
 なこうえんになたらうれいいです。
 ふくしまけんは、げんぼつしこでこわくつ
 らいことがありました。そとであそべなが。
 たことが一ぱとつらくてかたしが、たてす。
 いまは、そとでい、ばいあそべるようになり、
 うれいいです。ふくしまけんがくいわにくら
 せるようにうれいいです。

「ひがし日本だいしんさいの たいけんたんと ぶつしやくのおもひ」
一年なまえすがからまな

わたしは、ひがし日本だいしんさいのとき
のことば、しようじま、おぼえていませぬ。い
ま、しようがく一ねんせいですが、しんさい
のときは三さいだ。たとおかあさんにおしえ
てもらいました。

わたしは、たくさんわすれてしま。たみた
いです。あのとき、おかあさんのおなかに赤
ちゃんがいたことや、ふくいけんにかぞくで
すこしひなんしたことや、みやまけんにも
すこしひなんしたこともぜんぜんおぼえてい
ませぬ。でも、これはおぼえています。あの
ときのつなみで、おじいちゃんとおばあちゃ
んがなくな。たことと、かぞくで山なしけん
いひつこしてしようがくせいになるまでくら
したこと。おとうさんのおにいちゃんもなくな
な。たこと。

わたしは、じしんやつなみなんでもうあや
ほしくないです。まただれかがいなくな。て
あえなくなるのはもういやです。じしんやつ
なみは、せつたいにこない日本にな。てほし
いです。

「ひがし日本だいたいしんせいの たいけんだんと おつらうのおもい」

1年 なまえ ほんみやめ

わたしは じい じいしんがあつたと井は、ほいく
 しみにいきました。がたがたと大きくゆれたの
 でみんなでつくえの下にかくれました。その
 あと、そとでじいじがむかえにくるのをまち
 ました。いえにかえると、でんきのはついでに
 たけど水どうはとまつていきました。その日の
 よるは、なんとも、大きくじいしんがあつて、
 ねむれませんでした。あさになつたら、みんな
 だてわき水をくみにいききました。大ぜいの人
 たちが、たんく せも でながいれつをのく
 ていきました。やとじいじんのほんがきて水を
 くんてかえりました。いざなら、じやどち
 をひねれば水が出てくるのに、このいう大井
 じいしんがあると、でんきや水がつかえなく
 なつてしまします。水やでんきをたいせつに
 つがいたいとおもいました。

「ひがし日本だいしんさいの たいけんだんと むつらうくの抱もい」

一年なまえからういか

ひがし日本だいしんさいがおきたら月二日
 わたしは、はらまちにすんでいました。
 しんさいごしんち、やまがた、みやぎへとひ
 なんしていまはしんちにすんでいます。
 しんさいのとぎわわたしは、三さいでどうじ
 のことをよくおぼえていないのですが、パパ
 ヤママ、おじいちゃんおばあちゃんにはなし
 をきくと、とてもたいへんだ。たとききます。
 それから四ね人がたちふ。こはすすんでい
 ますがまだぜんががしんさいまえとおなじに
 はなっていないので、はやくまえとおなじよ
 うになればいいなとおもいます。

「ひがし日本だいしんちの たいけんたんご めいしんくのちん」
 一年なまえかこしんち

ひ	く	た	ち	の	す	ん	で	る	ぶ	く	し	ま	け	ん	が	い	ひ	が
か	こ	し	ば	い	ま	ま	れ	は	た	の	し	く	た	り	そ	う	で	す。
そ	の	り	ゆ	う	は	い	ん	が	た	く	い	ん	の	ま	る	が	ひ	が
で	す。	ま	と	で	ん	し	が	し	か	も	で	き	れ	ば	い	い	で	す。
た	く	ま	ゆ	め	い	に	い	く	し	ま	け	ん	が	す	て	ま	た	い
ら	た	い	ま	ら	い	て	い	し	い	て	す。							

「東日本大震災のたいげんだんとふつこうぐのおもい」

2年 名前がらがずは

しほくが、^{夜に電気が}東日本大震災の時に、せんだい
 にすんでいました。ほくは、ようちえんに行い
 ていました。お^家かまをしていると、じし
 んがおきました。じしんは、どんどん木きく
 なつてきてすわつていることがでまなくな
 りました。ほうさいがまをがぶつていすの下
 にひきました。すごくゆれて二あがつたです。
 ゆれがおさまつてくると、お母さんかまが
 に来てくれました。家に帰ると中は、ぐち
 ぐちで、^{電気が}電気がつきました。夜は、
 ろうそくが明かりをつけていましたが、ま
 ーブがつかなかつたので、すごくまぶかつた
 です。
 しほくの家は、つなみはまかせんで
 たくさんゆくが、なくなりました。数日後、
 じいちゃんのスんでいす^{新地町}新地町に行きました。
 つなみでたくさん家のまが二れされてい
 ました。かなしかつたです。
^{新地町}新地町が一日も早くもとどおりになつて
 気になつてほしいです。

しんさいでこま^ったこと
 水^がどう^かん^がわれ^てお^ふろ^がつ^がえ^なく^な
 り^まし^た。い^とこ^の家^のお^ふろ^をり^てひ^さし
 ぶ^りに^入る^こと^がで^きま^した。
 お^みせ^のし^よう^びん^がな^くて、^買う^こと^が
 で^きず^にた^べろ^もの^がど^こに^もあ^りま^せん^で
 し^た。み^んな^で家^にの^こと^をい^たお^かし^をわ
 け^てた^べて^いま^した。
 し^よ。き^だな^がた^おれ^て、お^さら^がわ^れ
 は^へん^がた^くさ^んち^らば^り、あ^るく^のが^大べ
 ん^でし^た。ぼ^くの^かぞ^くは、み^んな^けが^なく
 ぶ^じに^いら^れて^よか^った^です。
 し^んさい^がら^三年^たつ^たけ^ど、こ^のた^いげ
 ん^をわ^すれ^ない^よう^にし^て、し^んさい^をし^ら
 ない^人に^つな^みの^こわ^さや、し^んさい^のあ^と
 の^せい^がつ^がと^も大^へん^だた^こと^なと^を
 お^しえ^たい^と思^いま^す。

東日本大震災の時、ぼくは、ほいくえ
 んにいました。小笠か^つたので、よくおぼえ
 ていません。でも、テレビで^つなみのえいぞ
 うを見て、こわいと、思^つたのはおぼえてい
 ます。

ぼくたちは、新^がたけんにひな人^しましが
 体いとが^んですごした^い、むこうのほいくえ
 人にがよ^つたけど、ないてはかい^しました。
 ぶくしまけ人にもど^つてきて、新地町とい
 うところのかせつじ^やうた^んにひ^つこ^しまし
 た。

今は、友^だちもたくさんできて、楽しく学
 校にもかよ^つていきます。でも、ほうしゃ^のう
 がばい^で、川^でおえ^んだい、海^でおよ^いだ
 りもできません。早くもとのし^せんがたくさ
 んある、ぶくしまけ人にもど^つてほしいです。

ぼくは、はら^秀町でおじちゃんとお木をきいて
 いたり大きなじしんがきました。
 それで、ちがくに木があつたのでつがかり
 ました。
 それで、おばあちゃんにのなみちうにぼう
 がでたよといわれました。
 それで、車^車にのこつたが共^共に、家^家にけしました。
 それで、おあつた人のひんせいの家^家へいきま
 した。
 それで、しんちのがくごやにはいりました。
 こんどはらまあたにかえ。たりきれいになつて
 ぼしいです。
 夫^夫おじいちゃんとお木をきいたいです。
 一^一ぬせんほもいきだいです。
 まま大きなじしんがなないなはなはなとて
 まま大きなじしんがくるたにはななよになつた
 ちがくかたになつてくたさい。
 まだはらまあたにかえ。たりあつたあつたは
 一^一つあつてサッカーをしさいです。

ぼくが、よちえいの時でした。
 先生が、
 じいじい
 と言ったので、先生のほうに走って行
 きました。
 少しすると教室ががたがたと揺れました。
 目の前がくらくらとお昼ねのようになって
 されました。
 どちらかにならなくて外に走ってしま
 いました。
 すぐに、お母さんがおがえにきて車まで
 きました。
 おとがにわけてたりサネガクすれって
 いて、
 かがたてた。
 お家のカネ、たらサイルシがなていてし
 らくちると水がながれてきました。
 お母さんとはいえいでなりました。
 小学校はとてまむくおにギンをもら
 いました。
 もうこないでほしいです。これたても
 たら、これにたてきてくれたいです。

「東日本大震災の たいげんだんと ふっこうくのおもい」

2年 名前かんのろし

東日本大震災の時ぼくは、まだ、
 ほんくしよにいっていました。たのいでじしん
 のきおくはあまりのこってなくてただたいて
 人がことがおきているくらいにしかおぼえて
 ません。それで、テレビでながれる、たみの
 ようすは、すごくこわくて毎日かふおんでした。
 ぼくのすんでいる新地でもたくさんの人か、
 家がながされた、けがをした人がいます。
 たん回もぐちがぐちがな町をみてどうなるん
 だらうとおおんでした。
 でも、たくさんいろいろな人たちのやさし
 さや、しえんで町は、じしん前とかわらだ
 くらいにもとにもどリつつあります。ぼくは
 新地町が大すきです。二の大すきな大也町が、
 はやくもとのげん気い、ばいな町にもどれる
 ようになれたいと思います。

3月11日は、おれが会社の「ケ」キバイキ
 ソグがあ。こ、早くにおきて、きがえもして、
 おやつのじやんびをしておきました。
 その時、地しんが動きました。まぐつ又
 えたもぐりました。ゆれが夫きが。たので、
 外に並ました。じいちぎんがむかえに来て、
 家にかえりました。
 「大うなみけいほうがはつれいされました。
 と、ほうをうとサイソソの音が鳴りました。
 ぼくの家は、たか台が、たからぶじだ。た
 けど、はたけと田んぼがながされました。
 お父さんとお母さんは、家までもど。こに
 れなくこ、小学校のひなんどじよにとまりまし
 た。ぼくのところは、電気と水道が出なくな
 ったので、その日はま、くらなまま、ねました。
 ず。とよしんがあ。ここあか。たです。
 ぼくはト海水よくをした。ことがあらまむん。
 はやくもとのまねいな海にもど。こ、新地の
 海で、貝や魚をとったりおよ、だりした。こ
 ず。

地と私があの森時ぼくはほいぐじにいま
 した。地しんのこしはあぼえてなわけで、
 家がなくなつた時、ぼくはなもなきとあると
 ころと、森が三びまながけれたがらみしい
 と思いました。その後、こたりの町の丸森町
 いひなましました。そのお家は、古くて大き
 な家で地しんが来たのに、二弟をなくしてあんな
 しました。
 今で七歳い地しんは二おいです。地しん
 の時には小学校おひなんぐん兼んであつた
 こころは、ま出来るように、二れがらもひな
 くんを一人を一生けんめいとりくみたいです。
 今ぼくはかせつじやうたくにすんでいます。
 五年生になるころには、歌のふにうじやう
 たくが出来るがります。今のかせつじやうた
 くは、せまの心を新しいお家にすめるように
 なつたら、グッズを買いたいも思いました。
 新地町は、いおな町に、なつてほしいと思
 いました。

一年名前 鈴木 夢叶

大しんさいがおこ^た大時^{とき}わたしは四^よさい
 でした。その時は^{とき}、ほしくし^よにいて年長^{ねんちやう}さん
 のおわがれ^{わがれ}会^あいがある時^{とき}でした。じしんがおき
 た時は^{とき}、何^{なに}がおきたの^のがよくわ^わかりませんで
 したが、ただすぐ^{すぐ}ゆれて^ゆて止^とま^まて心^こりれな
 る^らら^らい^いで^でした。先生^{せんせい}がら^らー^ー
 ここはあぶ^{あぶ}な^ない^いから、ひなん^{ひなん}しまし^まし^しう^う。
 と言^いわれ^れて学^{まな}校^{がう}の体^{たい}い^いく^くが^がん^んに^にひ^ひなん^んしまし^ま
 た。体^{たい}い^いく^くが^がん^んには、学^{まな}校^{がう}の^のみ^みん^んな^なも^もあ^あつ^つま^ま
 っ^って^てい^いま^まし^した。じしんはも^もつ^つよ^よく^くな^なつ^つて
 い^いく^くい^いっ^っぽ^ぽう^うで^でした。か^かぞ^ぞく^くの^の火^ひが^がお^おか^かぬ^ぬに
 来^きる^るじ^じや^やん^ん番^{ばん}に^に家^{いえ}に^にか^かえ^えり^りま^まじ^じ走^はっ^っか^かえ^えると、
 今^{いま}ど^どは^はじ^じし^しん^んの^のえ^えこ^こき^きよ^よう^うで、つ^つな^なみ^みが^がお^おこ
 っ^って、海^{うみ}に^に近^{ちか}い^い人^{ひと}た^たち^ちは、ひ^ひなん^んし^しな^なけ^けれ^れば
 い^いけ^けな^ない^いと^と聞^きき^きま^まし^した。わ^わた^たし^しの^の家^{いえ}は^は山^{やま}よ^より
 だ^だっ^った^たの^ので、ひ^ひなん^んは^はし^しま^ませ^せん^んで^でし^した^たが、じ
 しんとつ^つな^なみ^みで^でと^とても^もこ^こわ^わか^かっ^った^たで^です。も^もう
 ニ^にど^どと^とあ^あん^んな^なに^にこ^こわ^わい^い思^{おも}い^いは^はし^した^たと^とあ^あつ^つま^ませ
 ん。い^いろ^ろんな^{んな}と^とこ^ころ^ろが^が早^{はや}く^くか^かっ^った^たこ^こう^うし^して^てく^くれ
 る^るの^のを^をい^いの^のっ^って^てい^いま^ます。

「東日本大震災の たいげんだんと ふつこうくのおもひ」
 2年 名前じょうじおみ

わたしは、東日本大震災の時に
 した。お母さんがちよつどお風呂でかえり
 ている時でした。お母さんがおしごと
 おばあちゃんのお家へあずか「てもら」てい
 ました。
 とつぜん大きな地震しんがきて、も
 らおちてきてお母さんにた「こたれ
 ました。今でもあすれることは出来
 ません。
 その日の夜は、地震しんがあずか「た
 んが「こ車」をなました。
 そのつぎの日、ほうしやのうがもれ
 のでひなんしてくださいと言われ
 ました。
 あれから今年ぐらいたちますが、ま
 だ前の
 お家にはすんでいません。
 今から小学校にがよ「ていま
 す。お友だ
 ちもたくさん出ました。来年には
 前のお家
 にかえるよ「ています。うれ
 しいよ「うがなし
 いよ「うが気もあ「てい「ば
 い「てです。
 今「こうの「めは「分「から
 ないけど、かなし
 い「思「い「た「する「人「が「い
 なく「な「て「は「し「い「て
 います。

平成三十三年、三月十一日に、東日本大震災がありました。まだ、わたしは、ほしくしよの時に地震がおきて、お父さんとおばあちゃんがかえにもこくれました。家にかえて、おばあちゃんといはあちんとくるおちやんとうるだにうえんに、みんなでいけました。おしんがわかだのて、夜は、車の中でおきました。電気も水も三日後にうきありました。また、大いなおび人や家かたれで多くの人がなくなると思わなかつた。わたしは家もかえくもいじでしたが、家やかそくをうきな。た人は、わたしはかわいさうだと思いはあ。げんしりよくはつてんじよのばんはつしりにあ。こ、そにから、にげるじたにかおきました。わたしは、みんなに大げなうしんにあだうつなみにあだりとは、はじめてました。わたしは、なくな、た人にかわ、こ、またおは生せんにかたにです。

わたしは、あの日お母さんとそつまのみな
 とへ行く途中で、地しんにあいました。
 お母さんと家へかえると、おばあちゃんが
 「あれつなみじやない?。」と言いました。み
 んなで学校までにげました。二日間たりにく
 かねでぬきました。早く家にかえりたいと思
 ったけどみんながいて楽しかったです。
 今は、海がこわくないので、海へ行たりし
 て楽しくくらししています。
 み来は、およげたりつでもあそべる海に
 なってほしいです。
 どんぐりプロジェクトで海のをばにうえた
 どんぐりのなえが、早くなえかえだてり
 はな木になってほしいです。

「東日本大しんさいの たいけんだんと ふつこうぐのおもい」

7年 名前 まつ本心

東日本大しんさいの時、わたしは4さいで
 した。今、きおくにあるのは、地しんがこわ
 かったという事です。それに、お母さんた
 ちのけいたいが、ブーブと鳴ると地しんが
 来るという合図だったの、その音を聞く
 今でもビツワリし、こわいです。
 そして、わたしのところは地しんだけでな
 く、ほうしゅうのうのもんたいもあり、あずま
 たいいくかん、りよかん、今すんでいるかせ
 つじゅうだくにもつりまし。かせつじゅう
 だくにもなれ、小学校にも集しんがぼつてい
 ます。
 今は、ふつこうぐという事で、わたしの
 父さんは大工さんなので、家がながされた人
 のおうちや、地しんでこわれた人の家を作っ
 ています。わたしには、何が出来るかがんが
 えましたが、思いつきませんでした。なので
 今わたしに出来ることは、べん強をがんばる
 ことと友だちとながよくすることだと思いま
 す。これからもがんばって行きたいです。

わたしは、東日本大震災の時のことは、
 あまりおぼえていませんが、お父さんや、お母
 さんから話を聞いてとてもかなしくなりました。
 つなみでおばあさんとおばさんがな
 くなりました。お母さんは、
 「とてもかなしく、おけい、がすおばあ
 さんが、うえでげん気だしな。と言ってるよ。
 と言、た二とで、かんばらうとおもったん
 よ。
 と、言われました。わたしは、思、た二とは
 お母さんがげん気だしてよか、たな。と、言
 二とです。
 今は、まだ二と二とが、かせつにすんでいます。
 そ二にいくと、たまにしかあえないので、かな
 しいですが、二れから楽しい二とや、うれし
 い二とがたくさんあるよ二に、生かして、い
 たたいと思います。お父さんは、
 「なくな、た人のいせを、しあわせになる、
 と言、こす。わたしも、しあわせになる、
 と思、持、す。

3年前ぐらいに大きなじしんがありました。
 その日わたしは、二がいでテレビを見ていた
 時、そのじしんが来ました。わたしはじしん
 が二がが「たのぞりう」につかまりました。
 その時におかあさんがたおけにきました。ホ
 におりたときおがれがながれちゃかんの中に
 はい、こいたおゆが二倍たてました。おの
 あとおじいちゃんかきこもるおでしやうえに
 ちうが、こらにきました。めのおみか、
 つなみをみたのでびくりました。二つも
 とおるみきがながれくるまがながれま
 ことも二ががたてす。そのあともなんど
 もじしんがおきてお父さんやお母さんにつか
 まりました。しばらくたつとじしんは、
 おさまりました。おとちちがツギツギひな
 んしてはくた、こがはしかたてす。しん
 たいから3年たちましたかかえ。こになにお
 ともだちやあたがしいおともだちかたたくさん
 います。ぶくし手がすみやすくおとじもほ
 うし、のうをきにしな二であえんじました。

わたしは、三月十一日、ほいくしよで、す

べしていました。とつせんの地しんて、とて

もこわく、先生の言うとおりにしてました。

お母さんが、しごとがらがえって来てめん

じんしました。つぎに、お見ぢやんのことを

おかえにいまました。車で、福田小学校へひ

びんしました。車にのっている時も、おみぢ

ぞんぞんおしよせてくるのがはつきり見えま

ました。福田小学校へついたらと思つたら、こ

こでもあつないかもしれないうという大人のは

んだんで、山の方へにげました。

今でも、その時のことを思い出すと、とつ

てもこわくが地しんやつおみぢ、もうせん

ほしくなるとおもいます。

今、~~新地~~町は、うう、こうにむかっでかんば

ています。わたしも、これからの~~新地~~町が、

めいあくなるまちのせものじやんとすずん

でたんかし、せものつかしていきたいと思いま

す。あの時のまうな地しんがもうなほいと

をなげ、ていあ。

わたしは東日本大震災の時はまだ四さい
 いで、大きな地しんがあつたことと、とても
 大きなつなみが来たことを、少しおぼえてい
 るだけです。

しんさいで、南そう馬市から新地町のかせ
 つじゅうたくにひつこうしました。

わたしは、新地町にすんごから、たくさん
 のしえんをうけました。かせつでは、大学生
 が来てあそんごしてくれたり、いろいろな町の人
 が来て夏まつりやクリスマス会などをして、
 楽しませてくれました。

小学校でもたくさんのおしえんをうけました。
 その中で一番思い出にのこっているのはヤン
 グアメリカンズです。三年生いじょうでわた
 しはできなかつたけど、ヤングアメリカンズ
 の人たちと歌、たりおどたりするのを見て、
 とてもすげーいと思いました。

わたしは、このたくさんのおしえんをわすれ
 ないで、大人にな、たらみんなの力になれる
 ことがしたいと思います。